

令和 6 年 度
事 業 報 告 書

学校法人富山国際学園

目 次

1 法人の概要	
(1) 基本情報	1
(2) 建学の精神	1
(3) 学校法人の沿革	1
(4) 設置する学校・学部・学科等	1
(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況	1
(6) 収容定員充足率	2
(7) 役員の概要	2
(8) 評議員の概要	2
(9) 教職員の概要	2
2 事業の概要	
(1) 主な教育・研究の概要	3
(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	8
3 財務の概要	
(1) 決算の概要	9
(2) その他（有価証券の状況等）	13
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	14
別紙	
(1) 役員等一覧	15
(2) 卒業の認定に関する方針等	16

1 法人の概要

(1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人富山国際学園
- ② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等
富山県富山市願海寺水口 444 番地
電話 076 (436) 5139、FAX 076 (436) 5444、HP アドレス www.tii.ac.jp

(2) 建学の精神 「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和 38 年 1 月	学校法人富山女子短期大学設立認可
昭和 38 年 4 月	富山女子短期大学開学
昭和 39 年 4 月	富山女子短期大学附属高等学校開校
昭和 52 年 4 月	富山女子短期大学附属みどり野幼稚園開園
平成元年 12 月	学校法人富山国際学園寄附行為変更認可
平成 2 年 4 月	富山国際大学開学
平成 4 年 4 月	富山国際大学附属高等学校に校名変更
平成 12 年 4 月	富山短期大学及び富山短期大学附属みどり野幼稚園に校名変更

(4) 設置する学校・学部・学科等

- ① 富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科
子ども育成学部 子ども育成学科
- ② 富山短期大学 食物栄養学科
幼児教育学科
経営情報学科
健康福祉学科
専攻科食物栄養専攻
- ③ 富山国際大学附属高等学校 全日制課程普通科
- ④ 富山短期大学附属みどり野幼稚園

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 6 年 5 月 1 日現在)

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現 員 数
富 山 国 際 大 学	現代社会学部	120	97	490	447
	子ども育成学部	90	89	370	380
富 山 短 期 大 学	食物栄養学科	80	68	160	130
	幼児教育学科	80	61	160	147
	経営情報学科	110	107	220	198
	健康福祉学科	40	27	80	50
	専攻科・食物栄養	15	8	30	17
付 属 高 等 学 校	全日制課程普通科	250	311	750	847
みどり野幼稚園			26	110	79

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
富山国際大学	104.1	103.1	104.1	99.5	96.2
富山短期大学	108.8	102.3	99.4	92.5	83.4
付 属 高 等 学 校	104.3	99.6	101.5	110.7	112.9
みどり野幼稚園	72.7	74.5	70.0	68.2	71.8

(7) 役員の概要 (令和 7 年 3 月 31 日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- ① 定数 理事 5 人以上 12 人以内
 監事 2 人
- ② 現員 理事 8 人
 監事 2 人

(8) 評議員の概要 (令和 7 年 3 月 31 日現在・別紙「役員等一覧」参照)

定数 11 人以上 30 人以内
現員 19 人

(9) 教職員の概要

(令和 6 年 5 月 1 日現在)

		教 員 数				事 務 職 員
		学長等	本 務	兼 務	計	
学園本部						4
国際大学	現代社会学部		22	14	37	19
	子ども育成学部		20	18	38	
	小 計	1	42	32	75	
富山短大	食物栄養学科		11	12	23	20
	幼児教育学科		10	6	17	
	経営情報学科		9	5	14	
	健康福祉学科		7	7	14	
	小 計	1	37	30	68	
付属高校		1	48	16	65	4
幼 稚 園		(1)	6	7	14	
合 計		4	133	85	222	47

※ 兼務教員 学内の兼務者を除く数で示す。

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

- ① 「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受け入れに関する方針」

別紙「卒業の認定に関する方針等」参照)

② 主な事業の概要

i 学園本部

a 学園情報教育研究センターの取り組み

令和3年度から4年計画で実施している学園情報ネットワーク刷新事業の最終年度として、令和6年度は短大ネットワーク装置の更新と未整備LAN配線や光ファイバーの更新、並びに大学/短大のWi-Fiアクセスポイント整備を実施して、整備計画を完了しました。

業務効率化事業としては、Kintone（キントーン）を用いた学内業務のワークフロー化を昨年に引き続き順次進めました。また県内、および県外旅費精算ワークフローについては、事務手順そのものの見直しとそれに合わせたシステム開発を実施し運用を開始しました。

セキュリティ対策としては、VPNルータの更新およびVPN一般利用の停止、ペネトレーションテストによるサーバと通信機器の脆弱性診断と対応、Eラーニングとメール訓練による学園教職員のセキュリティスキル向上と、MS, Google, kintone アカウントにおける2要素認証によるログインの義務化を行い、システム／利用者スキルの両面からの対策強化を進めました。

b 新駅（願海寺）設置に向けた取り組み

前年度に引き続き、呉羽キャンパスの交通アクセスを改善するため、期成同盟会と協力し、新駅設置に向けた取組を進めました。

ii 富山国際大学

a 教育・研究活動

(a) 授業改革等の推進

レポートルーブリック、プレゼンテーションルーブリック、卒業論文ルーブリックの運用を進め、評価の標準化を図り、併せて成績評価基準（評価内容、評価、Grade Point）に基づく、厳格かつ厳正な成績管理の運用を行いました。また、全学学生を対象に、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的とした、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに取り組みました。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業をはじめとして、37件、約20百万円の外部資金を獲得するなど、研究の推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

令和6年度、エクステンションカレッジ特別講演会を市民プラザで開催（2/21）しました。『心で走る』をテーマに、DeNAアスレティックスエリートアドバイザー 元オリンピックマラソン男子代表の瀬古利彦氏にご講演いただき、100名の市民に参加いただきました。

エクステンション・カレッジ語学講座も開講し、オンラインによる英語講座には前期6名、後期7名の計13名（のべ数）が受講しました。

(b) ボランティア活動

東黒牧キャンパスでは、住環境研究ゼミによる地域活性化、海王丸総帆展帆ボランティア、富山県青年議会本会議への参加、園児らを対象にした TUINS サッカー大会などを通じて、学生が地域貢献活動を実施しました。

呉羽キャンパスでは、学生の地域貢献、ボランティア活動への参加意欲が高く、「ちよっこおいでまこども食堂キャンパス」は何年も継続的に取り組むことで、地域の高い信頼を得ています。また、1年生の「地域社会参加活動」を中心に活発なボランティアが行われ、富山市立呉羽小学校のクラブ活動ボランティアには、1年生を中心に80名を超える学生の応募があり、13のクラブ活動へ積極的に参加して、児童の活動をサポートしました。サークルやゼミ単位での活動も盛んで TUINS プログラミング教育研究会は小学校のプログラミング教育の指導に参加するとともにドローン教室も行いました。さらに松山ゼミでは、「SDGs すごろく in 富山市」を制作し、富山市の SDGs ウィークに参加しました。包括連携協定を締結している南砺市や射水市の他、高岡市、砺波市などでも小中学生学習支援事業の支援員として意欲的に活動しています。

また、黒部市との包括連携協定締結による事業実施では、「くろべ市交流センター・あおーよ」の開館イベント等に両学部の学生が参加協力し、大変好評を得ました。

(c) 国際交流活動

新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、交流活動も徐々に復活しました。まず、4月に在学生に対し海外留学（派遣）プログラムや海外研修の参加促進を行いました。留学が必須となっている英語国際キャリア専攻2年次生の「グローバルスタディーズ」科目で今回はカナダ7名、フランス2名、マルタ（オンライン留学）1名が参加しました。期間は4～8か月間でした。半年以上留学した学生1名は、富山県が行う留学生貸与奨学金に採択されました。その他、英語国際キャリア専攻以外の希望者が参加し単位認定される「インターナショナルプログラムズ（長期）」でカナダ2名、中国1名が参加しました。また現代社会学部の各専攻が実施する海外研修（実習Ⅲ）では、イギリス研修に6名が参加しました。3月実施の異文化研修では、韓国研修に9名の学生が参加し、国際交流実習（マレーシア）には6名の学生が参加しました。海外から受け入れる留学生は、3年次編入生1名、交換留学生7名が新たに加わりました。6月には南砺市への県内研修を行い、五箇山にて合掌造り見学や和紙の紙すき体験など、在学留学生8人が富山県の伝統文化に触れながら交流活動を行いました。また、2025年1月には異文化体験（茶道教室）を開催し、留学生7名が参加しました。

子ども育成学部でも、国際化推進の取り組みを開始し、カナダのレスブリッジ大学異文化研修に8名の学生が参加しました。インターナショナルプログラムズ短期ではオーストラリアのサザンクロス大学の語学研修に学生1名が参加しました。

c 課外活動

ボート部は、U23 日本代表として男子2名が BM4-（舵手付きフォア）種目で 2024 ワールドユニバーシティゲームズ（オランダ開催）に出場し世界を舞台に活躍しました。全日本選手権大会では男子舵手付きフォアが準優勝、全日本大学選手権で3位、同大会で男子クォドルプルが3位、女子シングルスカルで3位となり全国大会における各種目で好成績を上げました。また、陸上競技部は、投擲種目では男子円盤投、ハンマー投、砲丸投げで北信越大会において上位入賞するなど、選手層の厚さ・個々の競技レベル向上が顕著となり、今後の活躍に期待が持てる結果となりました。

d 各学部の状況

(a) 現代社会学部

学生たちは各種の海外渡航プログラムを活用して海外で学びました。また文部科学省による認定を受けた「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」では多くの学生が認定を受け、社会のニーズに応える情報技術を習得しています。

また、地域活動では、昨年度に引き続き南砺市の SDGs 未来都市推進事業と連携した取り組みを行ったほか、各専攻の実習、研究室での活動、「夢への懸け橋事業」等で、地域の人々の協力も仰ぎながら、教員と学生が一丸となって地域の課題解決に取り組みました。

(b) 子ども育成学部

学生たちは、入学時から目標をもって大学での学びに向かう学生が多く、意欲的に授業に参加する姿が見られます。キャリア意識を高めるため1年生は、水曜日を「学外活動の日」として（前期終日、後期午後）授業を設定せず、地域社会参加活動などのボランティア活動や観察実験アシスタントなどの学外活動を奨励し、多くの分野の学びを経験するようにしています。さらに英語パートナーや外国人支援スタッフなどの県教委の事業、呉羽小学校のクラブ活動などに多くの学生が積極的に参加しています。小学校、幼稚園・保育所・認定こども園、福祉施設等で実習やインターンシップに熱心に参加し高い専門性を身に付ける学びを展開しています。

加えて、情報化推進の観点から「教育と ICT」の授業では、60 台の Chromebook をフル活用して ICT 活用能力を高めるとともに、富山県寄附講義では情報教育の最先端の研究者を招聘して、卒業生も加わって講演を聴き、学びを深めています。

iii 富山短期大学

a 教育・研究活動

(a) 授業改革等の推進

多様な学生へのよりきめ細やかな学修支援を行うことを目的に、教育課程の見直しを継続的に行っています。令和 5 年度に学則改正を行った内容（単位の見直しや情報関連科目内容の変更）については、令和 6 年度より実施し、授業等に反映しました。

また、カウンセラーの配置においても更なる充実を図るとともに、「障がい学生支援委員会」を開催し、配置を要する学生や、車椅子使用の学生をはじめ肢体不自由学生が学びやすい環境の整備にも努めました。

更に、AI・データサイエンスの技術を活用し、課題解決を図ることのできる人材の育成に努めるとともに、IT 関連教育の充実に向けた体制を整えました。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業、富山第一銀行奨学財団研究助成など、7 件 4 百万円弱の外部資金獲得、研究紀要第 60 巻発行、学長裁量経費助成研究など研究活動推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

呉羽キャンパスをはじめ 7 会場で 10 講座 18 テーマを開講し、受講者は延べ 789 人（前年 872 人）となりました。

(b) ボランティア活動

学生の人間力向上を目的として、本学独自の Web ボランティアシステムを活用し、活動への参加を推奨する取り組みを実施しました。令和 6 年度は、富山マラソンなどの

依頼件数が 192 件に対し 94 件の活動に学生が参加しました（昨年度 依頼件数 188 件 参加件数 107 件）。また、学生はサークルやゼミ・学生有志を集い、ボランティア活動等普及支援事業「+One とともに」に 7 団体（サークル、ゼミなど）が申請し、すべての団体が実施しました。

c 各学科の状況

(a) 食物栄養学科

卒業生 58 名に対して 50 名が栄養士の資格を取得したほか、6 名が栄養教諭第二種免許を取得しました。日商 PC 検定 3 級（文書作成）の検定試験には、20 名が合格しました。栄養士実力認定試験においては、成績優秀者 1 名、成績優良者 3 名が表彰されました。JA 全農とやまと産学連携協定を結び、県内で生産された規格外野菜を生かしたベジタブルソースを使って、手軽に作れる美味しいレシピ集を作成しました。長年に渡り、数多くの栄養士を養成してきた実績により竹内教授が全国栄養士養成施設協会の会長賞を受賞しました。

(b) 幼児教育学科

卒業生 84 名に対して 84 名が保育士資格、84 名が幼稚園教諭二種免許を取得しました。就職者全体の 100%が専門職に就職し、人材不足が叫ばれている保育分野と福祉分野に巣立ち、地域に貢献しました。本学科に設置されている幼児教育センター主催による「第 51 回幼児教育研究会」を開催しました。県内の保育関係者に多数参加いただき活発な情報・意見交換が行われました。また、地域の子育てを支援する活動にゼミやサークルに所属する多くの学生が参加しました。

(c) 経営情報学科

学生の就職活動に対するモチベーションを計画的に高めるため、1 年生の 11 月から地元有力企業の協力を得て、「学内企業研究会」や「学内企業説明会」などを開催しました。また、英語や小論文、面接などの特別指導を実施することで、富山大学などの編入学試験に 2 名が合格しました。これまで以上に地域社会に密着しながら、学生の多様な進路選択への支援に取り組み、専門的な知識と技術を身につけた人材を育成します。

(d) 健康福祉学科

教育活動では、10 月に厚生労働省と三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)が視察に訪れ、シャドーイングをはじめとした本学科の特徴的な取り組みが事例集（老人保健健康増進事業）に紹介されました。県の「認知症にやさしい地域づくりキャンペーン」をはじめ多くの事業に学生が参加し、学びを深めました。研究活動では、日本レセプト学会国際学術大会(ベトナム ハノイ)の大会長や、日本介護福祉教育学会の実行委員及び分科会座長、発表を行いました。新規に県から受託した「地域からの介護人材参入促進事業」では、学生や卒業生が参加し、PwC コンサルティングが開催した自治体情報交換会や事例集（厚生労働省補助事業）に紹介されました。

(e) 専攻科食物栄養専攻

専攻科 2 年生 9 名全員が、学位試験に合格し(独)大学評価・学位授与機構より学位（4 年制）を授与されました。昨年度の専攻科を修了した 12 名が管理栄養士の国家試験を受験し、6 名が合格しました。専攻科 2 年生の 9 名全員が、大阪で開催された第 71 回日本栄養改善学会学術総会にて、学会発表を行いました。

iv 附属高等学校

a 教育研究活動

(a) ICT (Information Communication Technology) 教育の推進

平成 23 年度より 14 年間（本年度で 15 年目）にわたって、県内でも最先端の ICT 教育を展開しています。生徒全員が iPad を所有するほか、高速無線 LAN や各教室へのプロジェクター 2 台設置、3D プリンター、ロボットなどの多種多様な教育環境を整備し、データサイエンス教育、プログラミング教育を実践しています。令和 6 年度高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）に採択され、デジタル等成長分野を支える人材育成を行っています。

(b) 国際交流活動の推進と学校のグローバル化

令和 6 年度は、本校から 3 カ国（アメリカ 2、韓国、ニュージーランド）の 4 校に 113 名の生徒を派遣しました。また、2 カ国（韓国、ニュージーランド）の 2 校から 48 名の生徒が本校を訪問し、国際交流が活発に行われました。

令和 6 年 7 月 11 日～7 月 27 日に、1 学年国際英語コースの 51 名の生徒が第 31 回アメリカ語学研修に参加し、ホームステイをしながらネイティブの授業等を受講しました。令和 6 年 7 月 30 日～8 月 10 日に、2 学年国際英語コースの 32 名の生徒が韓国語学研修に参加し、ソルブリッジ大学で英語ディベートの講義を受け、大田外国語高校の生徒と交流をしました。

令和 6 年 8 月 20 日～8 月 30 日に、16 名の生徒がアメリカ姉妹校ホームステイ研修に参加し、チェスタートン高校を訪問し、ホームステイしながら授業を受け、富山県の紹介をして交流しました。また、令和 7 年 3 月 11 日～3 月 21 日に、14 名の生徒がニュージーランド姉妹校研修に参加し、パ克蘭ガ・カレッジを訪問し、ホームステイをしながら授業に参加するなど、現地の高校生と様々な交流しました。

令和 6 年 4 月 15 日～4 月 22 日に、ニュージーランドの姉妹校であるパ克蘭ガ・カレッジから 14 名の生徒が来校し、本校生徒宅にホームステイし、授業に参加したり日本の文化を体験したりして交流しました。令和 7 年 1 月 21 日～1 月 22 日に、韓国の姉妹校である大田外国語高校の 34 名の生徒が来校し、本校生徒宅にホームステイし、授業を受け、華道体験、スポーツ交流などを通して交流しました。

2 学年の海外研修旅行では、令和 6 年 12 月 16 日～12 月 20 日に、103 名がシンガポールとマレーシアを訪問し、大学生との交流やホームビジットをしました。令和 6 年 12 月 17 日～12 月 21 日に 33 名がフィリピンのセブ島を訪問し、大学生との交流を行いました。コースを問わず、生徒の目はますます海外に向いている様子が顕著に伺えます。

b 課外活動

文化部は、新聞部が第 48 回全国高校総合文化祭の年間紙面審査で全国 6 位相当の優秀賞を受賞し、第 71 回富山県高校新聞コンクールでは 36 年連続となる最優秀賞を受賞しました。放送部は、第 71 回 NHK 杯全国高校放送コンテストで 研究奨励賞を受賞しました。英語部は第 73 回チャーチル杯全国高等学校生英語弁論大会で優勝しました。ユネスコ部は第 48 回全国高校総合文化祭の弁論部門で奨励賞を受賞しました。運動部では、バドミントン部が富山県高等学校総合体育大会の女子個人シングルスで優勝し、全国高校総体に出場しました。水泳部は第 47 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会のシンクロナイズド 3m 飛板飛込で優勝しました。野球部は、第 96 回春季富山県高等学校野球大会でベスト 8 に入り、夏の大会のシード権を獲得しました。校外でのボランティア活動では、まるごと TOYAMA 主催の「富山市街なかごみ拾い大作戦」や 24 時間テレビの街頭募金活動、富山マラソンのボランティアなど様々な活動に、延べ約 300 名の

生徒が積極的に参加しました。

v みどり野幼稚園

a 教育研究活動

(a) 幼稚園型認定こども園としての取り組み

認定こども園への移行後 6 年目となり、2 号認定の子どもは定員を超え、新 2 号認定（広域入所及び短時間就労等）の子どもも増えています（令和 6 年度末には 2 号認定 23 名、新 2 号認定 13 名）。早朝や閉園時間近くまでの保育を行う子どもが次第に増え、保育者の配置や落ち着ける空間の確保に工夫しながら保育にあたりました。1 号認定の子どもの預かり保育も延べ 3,026 人（R5：2,953 人）の利用となり、保育ニーズの高まりに応ずる体制づくりがますます必要となっています。

満 3 歳児の入園ニーズに対応するため、令和 5 年度から受け入れ枠を 12 名に増やしていますが、人員配置の関係もあり、令和 6 年度も 10 月以降の入園申請に応えることができませんでした。今後も職員体制の充実を図り、園児確保に努めたいと考えます。

(b) 子育て支援・保護者との連携

全ての保護者が保育参加の機会を得ることができるよう、個々の事情に応じた柔軟な実施に努めました。個別の相談には、担任をはじめ、主幹保育教諭や副園長が対応し、専門機関との連携をとりながら、継続的な支援を行いました。また、歴史ある「父親の会」を「父母を問わず、互いに力を合わせて、子どもたちのために活動する」保護者の集まり「ぺんぎん組」へと名称変更して、園庭整備や遊び大会などを行い、保護者会活動とあわせて、子どもの育ちを支える環境づくりを推進しています。

地域の未就園児親子に対しては、親子サークルを年 30 回開催し、子育て支援を行いました。サークル講師として在園児や卒園児の保護者の協力を得ることで、保護者と一体となった支援を展開することができました。

◎延べ 674 人参加（R5：1,028 人）

内訳：保護者 326 人、児童 348 人：（R5：保護者 483 人、児童 545 人）

(c) 研究・研修、学園内連携

継続してきた「教育課程研究」に基づき、ウェブ図を用いた記録と計画作成を通して、保育内容の振り返りと保育のねらいの精査を行いました。「幼児期に育てたい 10 の姿」を意識したねらいと内容の計画と実践の振り返りを行い、PDCA サイクルと OODA ループの充実を図っています。

実習指導としては、富山短期大学幼児教育学科 61 名の学生が各 9 日間の観察・参加実習を行い、個々の学生に応じた丁寧な指導に努めました。さらに短大幼児教育学科との連携のもと、夏季保育や行事ボランティアに多数の学生の参加を得ることができ、相互の学びとなりました。富山国際大学とは、定期的に保育に携わる「保育サポーター」の派遣や教員の研究協力等で連携を深めています。また、大学東黒牧キャンパスを利用した行事や大学・短大合同大学祭への参加、高校野球部との交流など、学園内連携・交流を積極的に行いました。

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

学園将来構想を踏まえた令和 5(2023)年度までを計画期間とする学園中期事業計画の見直しを行い、令和 6 年度～10 年度）までを計画期間とする新たな学園中期事業計画を策定しました。これにより新たに私立学校法改正等への対応や急速に進行する少子化や AI・IT が社会経済に及ぼす影響に対応し、学園の持続可能な運営を推進してまいります。

3 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

i 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、13,752百万円と前年度に比べ82百万円の減少、負債総額は1,211百万円で前年度に比べ37百万円の増加となりました。

総資産額の減少は、有形固定資産の減少によるもので、また、負債総額の増加は、未払金等の流動負債の増加によるものです。

(単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	12,594,092	12,636,119	12,728,672	12,687,957	12,490,403
流動資産	1,068,999	1,185,794	1,231,824	1,146,500	1,261,675
資産の部合計	13,663,091	13,821,913	13,960,496	13,834,457	13,752,078
固定負債	568,099	569,943	615,110	618,334	625,787
流動負債	628,283	635,512	635,230	555,992	585,723
負債の部合計	1,196,382	1,205,455	1,250,340	1,174,326	1,211,510
基本金	14,850,525	14,900,418	14,951,762	14,981,120	15,116,648
繰越収支差額	△ 2,383,816	△ 2,283,960	△ 2,241,606	△ 2,320,989	△ 2,576,079
純資産の部合計	12,466,709	12,616,458	12,710,156	12,660,131	12,540,569
負債の部及び純資産の部合計	13,663,091	13,821,913	13,960,496	13,834,457	13,752,079

ii 財務比率の経年変化

流動比率は、約150%から約200%程度で推移しており、短期的な返済力には支障がない水準にあります。

積立率は、令和6年度末で76.6%と前年度に比べ減少しました。運用資産の充実に努めていく必要があります。

(単位：年・%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率(年)	2.2	2.3	2.3	2.4	2.3
流動比率	170.1	186.6	193.9	206.2	215.4
総負債比率	8.8	8.7	9.0	8.5	8.8
前受金保有率	204.5	230.4	260.0	258.8	286.4
基本金比率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
積立率	76.4	78.7	82.8	85.0	76.6

② 資金収支計算書書類関係

i 資金収支計算書の状況と経年比較

当年度の資金収入総額及び支出総額は、3,721百万円と前年度に比べ125百万円の減少となりました。

(単位：千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	2,043,820	1,995,554	1,983,366	1,903,274	1,799,894
手数料収入	38,873	37,721	33,926	32,396	28,839
寄付金収入	4,627	3,885	16,820	1,960	1,424
補助金収入	629,567	607,395	639,553	685,224	764,650
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	18,822	23,658	22,169	21,758	30,313
受取利息・配当金収入	1,754	1,758	1,359	1,033	3,479
雑収入	82,433	57,229	126,247	51,495	102,119
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	459,755	460,960	417,325	405,660	380,580
その他の収入	110,055	117,081	133,584	145,230	108,230
資金収入調整勘定	△ 564,954	△ 533,384	△ 579,568	△ 487,091	△ 547,819
前年度繰越支払資金	844,356	940,047	1,062,118	1,085,116	1,049,835
収入の部合計	3,669,108	3,711,904	3,856,899	3,846,055	3,721,544

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	1,645,743	1,598,660	1,695,877	1,620,719	1,740,911
教育研究費支出	509,839	534,433	584,020	631,553	625,861
管理経費支出	126,773	125,345	134,138	151,723	154,079
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	51,306	25,376	16,496	1,262	33,050
設備関係支出	65,147	32,226	87,905	72,898	60,324
資産運用支出	317,800	339,770	339,151	237,249	54,176
その他の支出	119,310	79,645	113,698	158,504	91,495
資金支出調整勘定	△ 106,857	△ 85,669	△ 199,502	△ 77,688	△ 128,198
翌年度繰越支払資金	940,047	1,062,118	1,085,116	1,049,835	1,089,846
支出の部合計	3,669,108	3,711,904	3,856,899	3,846,055	3,721,544

ii 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動資金収支差額は、143百万円と前年度と比べ黒字幅が108百万円の減少となりましたが、これは、学納金が減少したことなどによるものです。

施設整備等活動資金収支差額は、△93百万円と赤字幅が前年度に比べ19百万円の増加となりました。

その他の活動資金収支差額は、△10百万円と前年度に比べ赤字幅が202百万円減少しましたが、これは特定資産への繰入額の減少などによるものです。

支払資金は、年度当初の1,050百万円から年度末には1,090百万円と40百万円増加しております。

(単位：千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	2,830,483	2,723,534	2,821,452	2,695,444	2,724,764
	教育活動資金支出計	2,282,369	2,258,388	2,413,507	2,403,996	2,520,845
	差 引	548,114	465,146	407,945	291,448	203,919
	調 整 勘 定 等	△ 51,501	12,922	24,298	△ 40,606	△ 60,770
	教育活動資金収支差額	496,613	478,068	432,243	250,842	143,149
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	9,874	1,687	295	407	702
	施設整備等活動資金支出計	116,453	57,602	104,401	74,160	93,374
	差 引	△ 106,579	△ 55,915	△ 104,106	△ 73,753	△ 92,672
	調 整 勘 定 等	0	0	0	0	0
	施設整備等活動資金収支差額	△ 106,579	△ 55,915	△ 104,106	△ 73,753	△ 92,672
	小 計 (※1)	390,034	422,153	328,137	177,089	50,477
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	24,286	12,525	61,649	27,911	43,715
	その他の活動資金支出計	318,628	312,608	366,787	240,281	54,181
	差 引	△ 294,342	△ 300,083	△ 305,138	△ 212,370	△ 10,466
	調 整 勘 定 等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 294,342	△ 300,083	△ 305,138	△ 212,370	△ 10,466
	支払資金の増減額 (※2)	95,692	122,070	22,999	△ 35,281	40,011
	前年度繰越支払資金	844,355	940,047	1,062,117	1,085,116	1,049,835
	翌年度繰越支払資金	940,047	1,062,117	1,085,116	1,049,835	1,089,846

※1 教育活動資金収支差額及び施設整備等活動収支差額の合計額を示す。

※2 小計 (※1) 及びその他の活動資金収支差額の合計額を示す。

iii 財務比率の経年比較

(単位：%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	17.6	17.6	15.3	9.3	5.3

③ 事業活動収支計算書関係

i 事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度収支は、学納金の減少、人件費の増加などにより、前年度の79百万円の赤字から255百万円の赤字となりました。

(単位：千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,043,820	1,995,554	1,983,366	1,903,274	1,799,894
	手 数 料	38,873	37,721	33,926	32,396	28,839
	寄 付 金	5,209	4,279	17,140	2,296	2,340
	経常費等補助金	619,693	605,708	639,259	684,818	763,948
	付随事業収入	18,822	23,658	22,169	21,758	30,312
	雑 収 入	94,727	63,489	137,756	65,003	123,936
	教育活動収入計	2,821,144	2,730,409	2,833,616	2,709,545	2,749,269
	事業活動支出の部					
	人 件 費	1,654,196	1,606,915	1,710,986	1,648,709	1,782,967
	教育研究経費	831,405	854,541	898,781	952,560	935,009
	管 理 経 費	129,570	129,917	137,927	155,064	159,296
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	2,615,171	2,591,373	2,747,694	2,756,333	2,877,272
	教育活動収支差額	205,973	139,036	85,922	△ 46,788	△ 128,003
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1,754	1,758	1,359	1,033	3,479
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	1,754	1,758	1,359	1,033	3,479
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	1,754	1,758	1,359	1,033	3,479
	経 常 収 支 差 額	207,727	140,794	87,281	△ 45,755	△ 124,524
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	17,184	11,363	12,234	6,074	10,571
	特 別 収 入 計	17,184	11,363	12,234	6,074	10,571
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,699	2,357	5,289	10,343	5,605
	その他の特別支出	0	50	529	0	5
	特 別 支 出 計	2,699	2,407	5,818	10,343	5,610
	特 別 収 支 差 額	14,485	8,956	6,416	△ 4,269	4,961
	基本金組入前当年度収支差額	222,212	149,750	93,697	△ 50,024	△ 119,563
基 本 金 組 入 額 合 計		△ 113,750	△ 52,894	△ 51,344	△ 29,358	△ 135,527
当 年 度 収 支 差 額		108,462	96,856	42,353	△ 79,382	△ 255,090
前 年 度 繰 越 収 支 差 額		△ 2,492,278	△ 2,383,816	△ 2,283,960	△ 2,241,607	△ 2,320,989
基 本 金 取 崩 額		0	3,000	0	0	0
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額		△ 2,383,816	△ 2,283,960	△ 2,241,607	△ 2,320,989	△ 2,576,079
(参考)						
事 業 活 動 収 入 計		2,840,082	2,743,530	2,847,209	2,716,652	2,763,319
事 業 活 動 支 出 計		2,617,870	2,593,780	2,753,512	2,766,676	2,882,882

ii 財務比率の経年比較

人件費比率は、約65%とやや高い水準です。

教育研究経費比率は、約30%前後で推移しており、教育研究活動の維持に必要な水準は確保されています。

事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の大幅な減少等により事業活動収入、経常収入が減少したため、前年度に比べ、それぞれ3%程度減少しています。

(単位：%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	58.6	58.8	60.4	60.8	64.8
教育研究経費比率	29.5	31.3	31.7	35.1	34.0
管理経費比率	4.6	4.8	4.9	5.7	5.8
事業活動収支差額比率	7.8	5.5	3.3	-1.8	-4.3
学生生徒等納付金比率	72.4	73.0	70.0	70.2	65.4
経常収支差額比率	7.4	5.2	3.1	-1.7	-4.5

(2) その他

① 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	貸借対照表上計上額	時 価	差 額
出 資 金	5	5	0

② 借入金の状況

借 入 先	期末残高	利率	返 済 期 限
<該当なし>			

③ 学校債の状況

発 行 年 度	期末残高	利率	償 還 期 限
<該当なし>			

④ 寄附金の状況

(単位：千円)

寄付金の種類	寄 付 者	金 額	摘 要
一 般 寄 付 金	個人・企業	0	教育研究等資金として
特 別 寄 付 金	企業等	1,424	寄附講座資金として
現 物 寄 付 金	高校卒業記念等	9,014	美術品等
合 計		10,438	

⑤ 補助金の状況

各設置校の補助金の交付状況は次のとおりです。

(単位：千円)

補助金の種類	国際大学	富山短大	付属高校	幼稚園	合 計
国 庫 補 助 金	176,816	134,505	14,976	0	326,297
地方公共団体等補助金	3,139	2,949	328,762	102,801	437,651
合 計	179,955	137,454	343,738	102,801	763,948

⑥ 収益事業の状況
＜該当なし＞

⑦ 関連当事者等との取引の状況
i 関連当事者 ＜該当なし＞
ii 出資会社 ＜該当なし＞

⑧ 学校法人間財務取引 ＜該当なし＞

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学園全体の当年度収支は、前年度に比べ学生生徒納付金の大幅な減少等により、2年連続の赤字となりました。

財務比率をみると、事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の減少により前年度に比べ低下しており、全国平均値を下回っております。また、積立率は、令和6年度末で76.6%と前年度に比べ減少し、後も運用資産の充実に努めていく必要があります。なお、流動比率は、約170～215%程度で推移しており、短期的な返済力には支障のない水準にあります。

今後、教育研究活動の維持・向上のためには、人件費比率を低減させるとともに、教育研究経費比率を高めていく必要があります。また、大学及び短大施設の老朽化の進展を踏まえると、今後、改築又は修繕・改修費の増高が見込まれることから、引き続き、学生確保に積極的に取り組むなど、収益性をさらに高めるとともに、運用資産の充実に図り経営の安定性を高めていく必要があります。

役 員 等 一 覧

(令和7年3月31日現在)

1 役 員

理事 定数 5人以上12人以内・現員 8人

監事 定数 2人・現員 2人

区 分	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主 な 現 職 等
理 事 長	金 岡 克 己	理 事 平成27年 9月17日 理事長 平成29年 6月 1日	非常勤	(株)スカイインテック特別参与
常務理事	黒 崎 紫抄代	理 事 平成31年 4月 1日 常務理事 令和元年 5月31日	常 勤	学園本部事務局長
理 事	高 木 利 久	令和元年 7月 1日	常 勤	富山国際大学学長、富山短期大学学長
理 事	仲 井 章	令和 4年 4月 1日	常 勤	富山国際大学附属高等学校校長
理 事	水 口 昭一郎	平成26年 4月 1日	非常勤	立山科学(株)代表取締役会長
理 事	山 地 清	平成26年 4月 1日	非常勤	富山信用金庫会長
理 事	若 林 啓 介	平成28年 5月31日	非常勤	紙ぷらす(株)代表取締役会長
理 事	藤 井 久 丈	平成29年 4月 1日	非常勤	医療法人社団藤聖会理事長
監 事	渡 辺 光	令和 6年 6月27日	非常勤	舟橋村長
監 事	大 橋 豊	令和 4年 6月27日	非常勤	富山県商工会議所連合会常任理事・事務局長

2 評議員

定員11人以上30人以内・現員19人

氏 名	就任年月日	主 な 現 職 等
金 岡 克 己	平成25年 3月28日	(株)スカイインテック特別参与
高 木 利 久	平成31年 4月 1日	富山国際大学学長、富山短期大学学長
中 川 修	令和 7年 3月25日	富山国際大学附属高等学校副校長
高 野 愛	平成28年11月30日	富山国際大学卒業生
安 川 和 子	平成 2年11月 9日	富山短期大学卒業生
梅 野 三 保	令和 3年 3月29日	富山国際大学附属高等学校卒業生
水 口 昭一郎	平成 8年 4月 1日	立山科学(株)代表取締役会長
金 岡 純 二	平成 5年 9月 8日	(株)富山第一銀行常勤相談役
岩 田 繁 子	平成18年 5月31日	富山県婦人会長
深 田 均	令和 4年 4月 1日	老田地区自治振興会長
梅 田 ひろ美	平成26年 4月 1日	(株)ユニゾーン代表取締役会長
蔵 堀 祐 一	令和 3年 5月25日	富山県副知事
西 田 政 司	令和 6年 4月 1日	富山市副市長
須 藤 彰 仁	令和 6年11月26日	富山国際大学後援会長
井 上 勝 義	令和 5年12月20日	富山短期大学後援会長
田 代 聡	令和 6年 5月29日	富山国際大学附属高等学校PTA会長
佐 藤 悦 夫	令和 7年 3月25日	富山国際大学現代社会学部教授
宮 田 徹	令和 6年 4月 1日	富山短期大学附属みどり野幼稚園長
藤 本 治 男	令和 7年 3月25日	学園本部事務局次長

I 富山国際大学

1 卒業認定・学位授与の方針

富山国際大学（以下、「本学」という。）は、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを、基本理念に掲げている。

このような基本理念を踏まえて、所属学部教育課程所定の単位を修得したうえで、以下のような資質・能力を身につけることを目標とする。

各学部の卒業認定・学位授与の方針は、この全学の方針を踏まえて定める。

・人間性の向上（DP1）

共存・共生の精神のもと時代の潮流に対応できるよう、人間として必要な知識や教養、思考力・表現力、倫理観を身につける。

・専門性の向上（DP2）

各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。

・社会性の向上（DP3）

大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持ち自立した人間になったと実感できる力を身につける。

2 教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針に基づき、教養科目、専門科目を体系的に編成して、講義、演習、実習科目等を適切に配置し、効果的な授業の実施を図る。

- (1) 教養科目に、共存・共生の時代において時代の潮流に対応できる人材の育成を図るために、「人間理解」「社会理解」「国際化・情報化対応」「キャリア系」「教養演習」等の科目群を設ける。
- (2) 各学部の専門科目を、学部や専攻の専門分野の修得に適した科目群に分け、体系的に授業科目を配置する。
- (3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教養科目の中に「キャリア科目群」を設ける。また、重点的に育成する全学共通の基礎的・汎用的能力として、コミュニケーション能力、協働力、課題解決力を設定し、これらの能力の向上を図るため、各授業科目でどの能力を伸ばすかをシラバスで明示する。

各学部の教育課程編成・実施の方針は、この全学の教育課程編成・実施の方針及び各学部の卒業認定・学位授与の方針に基づき、定めることとし、各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

授業の実施にあたっては、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習等、多様な教育方法による効果的学びを採り入れることとし、各授業科目でどのような教育方法を採用するかをシラバスで明示する。

3 入学者の受け入れ方針

・富山国際大学の教育理念・目標

富山国際大学では、「共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成することを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代において、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標としています。

このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

・求める人物像

- ① 大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を有し、学ぶ意欲および目的意識を持つ人
- ② 知性、教養を身に付け、個性豊かな人間をめざし、自己を高める努力をする人
- ③ 国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、専門的・実践的な知識や技術の取得に意欲を持つ人

Ⅱ 富山短期大学

1 卒業認定・学位授与の方針

富山短期大学は建学の精神・教育の理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の5つの力を身につけることを全学的な教育目標としています。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し、多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」

これらを踏まえて、各学科がそれぞれの教育目的に応じて定める卒業認定・学位授与の方針に示す学修成果を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士の学位を授与します。専攻科においては、専攻科修了認定方針に示す学修成果を修得し、所定の修了要件を満たした人の修了を認定します。

2 教育課程編成・実施の方針

富山短期大学がめざす人材を育成するために、本学の教育理念に沿って、各学科・専攻科がそれぞれの教育目的・目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。

教育課程の体系をわかりやすく示すために、科目間の連携や系統性を示すナンバリングを行い、併せて科目系統図を示します。

さらに、各授業科目の学修成果と、学位プログラム全体・各学期の学修成果との関連をわかりやすく示すために、カリキュラムマップを作成し提示します。

教育内容、教育方法・学修方法、評価については以下のように定めます。

(1) 教育内容

2年間を通じて、各学科の教育課程の体系性に基づき、系統立てて必修科目、選択科目を適切に配置し教育を実施します。

(2) 教育方法・学修方法

卒業認定・学位授与の方針に掲げる身につけるべき「5つの力」（「専門的知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学ぶ力」、「協働力」、「人間性」）育成のために、各学年・各学期に講義、演習、実習・実験・実技を適切に配列するとともに、すべての教科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開に努めます。

学生の「振り返り（リフレクション）」を促し、「主体的学び」へのモチベーションを高めるために、各種試験や課題・レポート、アンケート結果等を学期中にフィードバックする等の形成的評価に努めます。

(3) 評価

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学修成果の修得状況を、「学生個人」、「学科」、「大学」の3つのレベルで把握し、多面的・総合的に評価して、授業改善、学生の個別

学習指導、ひいては教学の改善に役立てるとともに、対外的に教育の質保証を担保し、説明責任を果たすための可視化に努めます。

各授業科目の成績評価については、シラバスに示された学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、学修成果の5つの基準（LO1：知識・理解、LO2：技能、LO3：思考力・表現力、LO4：関心・意欲・態度、LO5：人間性・社会性）別に、多様な手段と方法により、多面的・総合的かつ厳正に行うことを基本とします。

「学生個人」のレベルでは、各授業科目における学修成果基準別成績評価を累計して、学修成果基準別ならびに学修成果全体の実現・達成状況を確認するとともに、学期ごと及び累積のGPAを算出し、総合成績評価を行います。加えて、毎学期末の授業アンケートによる当該授業科目に関する学修成果基準別到達度、1年次前期末・後期末と卒業時に実施する学修行動・生活調査による学修成果基準別資質・能力の成長度を集計し、学生個人の学修成果の修得状況を多面的・総合的に評価します。

「学科」レベルの学修成果は、上記の「学生個人」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

「大学」レベルの学修成果は、上記の「学科」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

3 入学者受入れの方針

富山短期大学は、昭和38年、富山女子短期大学として創立以来、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を教育理念としてきました。

地域社会への貢献を社会的使命とする本学では、時代の要請に応えるべく、各分野でのスペシャリストの養成をめざしています。

この教育理念・教育目標に基づき、本学では、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に則って育成するために、次のような人の入学を希望します。

- ・大学教育を受けるにふさわしい基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を有している人
- ・知性、教養を身につけ、個性豊かな人間をめざし、主体性をもって自己を高める努力をする人
- ・積極的に他者との関わりをもち、地域社会の発展に貢献する意欲を持つ人

本学では、このような入学者を適正に選抜するために、多様な入試方法を実施し、本学が求める資質・能力を多面的・総合的に評価します。